



株式会社斎藤英次商店

Website ● <https://www.saito-eiji.co.jp/>

TEL ● 04-7186-6701

2025 SUSTAINABILITY REPORT



目次	01
編集方針	02
… 当期実績	…
財務・非財務ハイライト	03-04
… 環境	…
SCOPE1・2・3	05
マテリアルフロー	06
… SAITOH EIJI WAY	…
ミッションビジョン	07
インパクトマップ	08-10
… 社会	…
取組紹介	11-14
… ガバナンス	…
委員会活動実績	15-16
会社概要	17
拠点一覧	18

編集方針

本レポートは、当社の「事業活動を通じて社会に貢献していく」という姿勢を幅広いステークホルダーの皆さまに、より明確にお伝えすることを目的にESG（環境・社会・ガバナンス）全体の取組みについて報告しております。

環境報告ページでは、可能な限り定量的なデータを開示しており、社会やガバナンスページでも、適時・適切な情報開示に努めております。

発行時期

発行 : 2026年 3月
次回 : 2027年 3月

報告範囲

対象組織 : 株式会社 斎藤英次商店
対象期間 : 2025年度（2024年11月～2025年10月）

参考にしたガイドライン

・環境庁「環境報告ガイドライン（2018年版）」
・ISO26000「社会的責任に関する手引き」

作成部署・お問合せ先

株式会社斎藤英次商店
インサイドセールスチーム

URL : <https://www.saito-eiji.co.jp>
E-mail : support@saito-eiji.co.jp

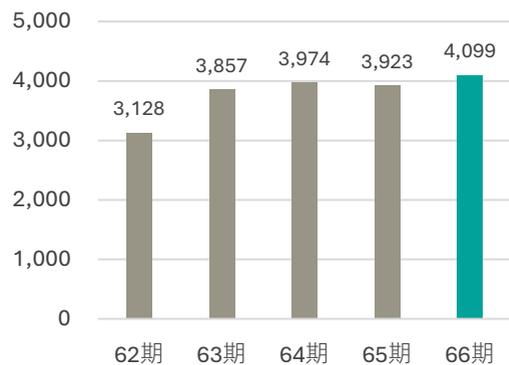




財務

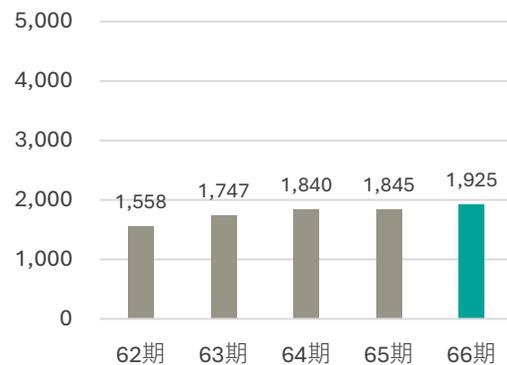
売上高

2025年度 4,099 百万円



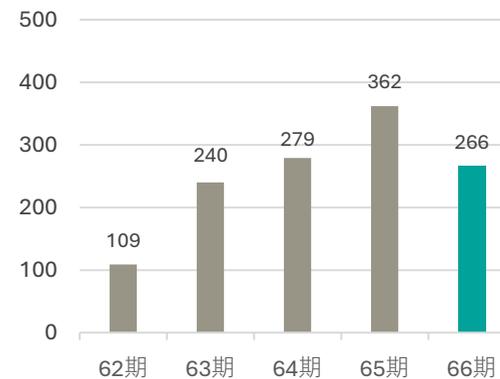
売上総利益

2025年度 1,925 百万円



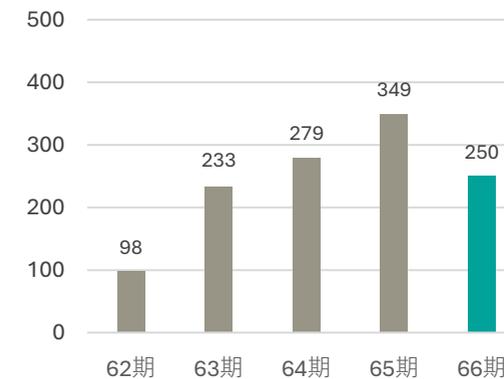
営業利益

2025年度 266 百万円



経常利益

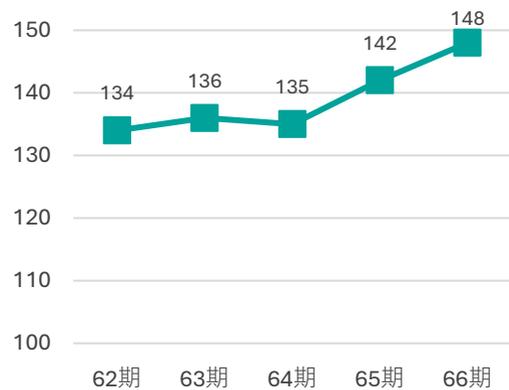
2025年度 250 百万円



非財務

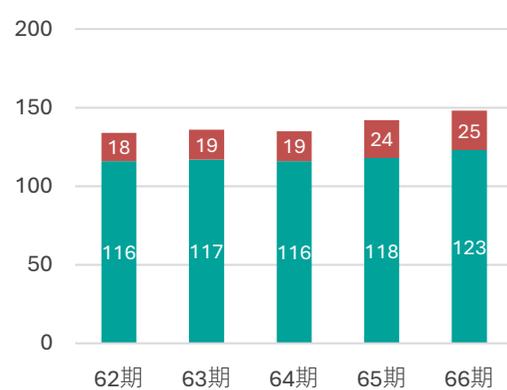
従業員数

2025年度 148 名



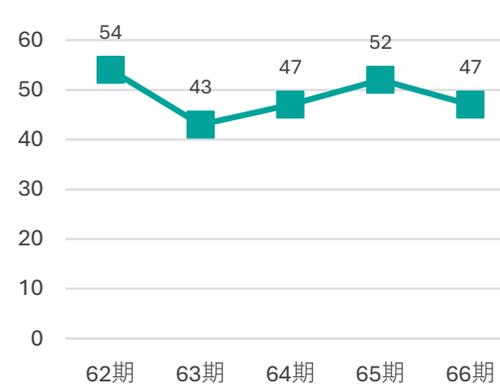
従業員男女比率

2025年度 女性 25 名



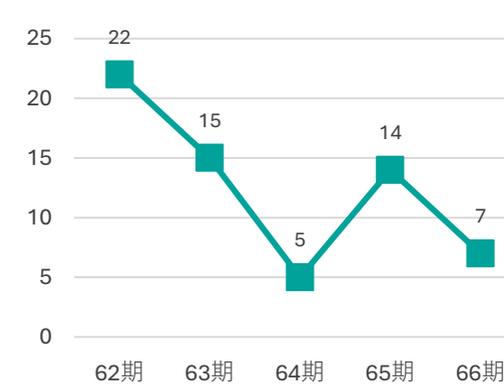
従業員満足度

2025年度 47 %



産業廃棄物管理能力検定合格者

累計 73 名





SCOPE1・2・3

環境活動の目標

2022年～2029年の目標（中期目標）

カテゴリ	2024年度CO2排出量	2024年度総排出量	2029年度目標	達成率
Scope1 車両等燃料	1,476	1,555	1,430	92.0%
Scope2 非化石証書付電力	0			
通常電力	79			

2025年の自己評価

2024年度より引き続き、CO2排出量分のJ-CREDITを購入することで、Scope1・2のカーボンニュートラルを達成しています。

さて去年と比較すると、CO2排出量は残念ながら増えてしまいました。要因としては、回収車両の増車が大きく、前年比約5.6%増となっています。CO2排出量全体の84.75%が車両に使用する軽油由来のCO2排出のため全体にも大きな影響を与えました。

一方、営業所で使用する重機については電動化を進めており、結果、重機使用の軽油由来CO2排出量については前年比10%近い削減に成功しています。

ただし電動化の影響は営業所の電力由来によるCO2排出量が前年比32.5%増という形で表れていますが、重機の軽油由来が全体の約10%、電力由来に至っては全体の約5%ということを考えると、やはり先に述べた回収車両の増車が最大の要因ということになります。

当社に限らず、車両運用が必要不可欠な事業者にとって、車両の脱化石燃料とコスト圧縮がカーボンニュートラルを目指す社会の至上命題と言えます。

※単位：t-CO2e

※「---」は計測不可対象なし。

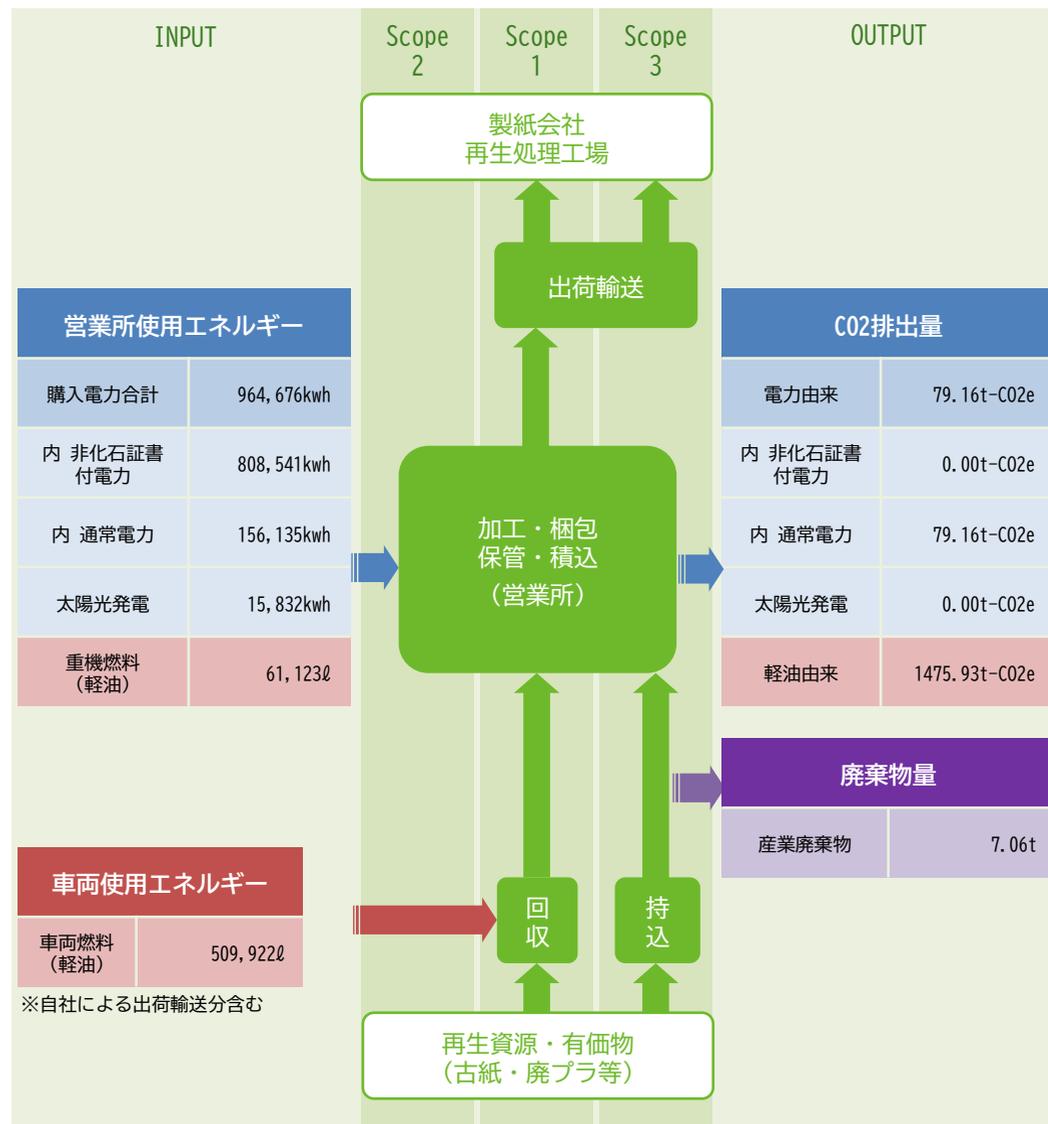
※係数・原単位…グリーン・バリューチェーンプラットフォーム_排出原単位DataBase



マテリアルフロー

2024年度実績

生産活動におけるマテリアルフロー



MISSION

企業理念

物の価値と心の価値をつなぎ、
「できてよかった」の幸せで世界を豊かにします。

BRAND VISION

ブランドビジョン

知性とセンスで環境問題を解決へと導く
「スマートなりサイクルカンパニー」

VISION 2046

経営方針

Zero Waste 廃棄物のない社会を目指して

私たちは、世界規模の資源循環をにないます。
そのために、誰でも簡単に楽しくリサイクルできるようにします。

Zero Carbon 温室効果ガスを排出しない社会を目指して

私たちは、脱炭素型の資源循環ビジネスモデルを創造します。
そのために、デジタル技術や再生可能エネルギーを活用します。

■ 自社が起こす「社会的インパクト」を成果とした背景

「社会的インパクト」を成果とする考え方を取り入れることになったのは、当社代表である斎藤が『社会的インパクトとは何か ― 社会変革のための投資・評価・事業戦略ガイド』（マーク・J・エプスタイン、クリスティ・ユーザス著）を読んだことがきっかけです。

本書では、売上や利益ではなく、組織が起こす社会的・環境的な変化こそが成果であると述べられています。
以前から「売上や利益のために経営をしてはならない」という教えのもとで経営を行ってきた社長はこの考えに深く共感し、社会的インパクトを最終的な成果とする経営のあり方をより明確にしたいと考えました。

■ 社会的インパクトまでを可視化したインパクトマップ

私たちは、まず事業活動が資源の投入から最終的な成果につながるまでの因果関係を整理する「ロジックモデル」を用いて、当社事業を整理しました。
そして投資家やステークホルダーに対して事業活動を報告する際に使われる「社会的インパクト評価」をもとに当社の社会的影響を可視化したのです。
その成果物を「インパクトマップ」と呼ぶことにしました。

その構成は以下の通り

Input : プロジェクトや事業を実施するために投入される資源や要素

Action : 投入されたInputを活用して行われる具体的な活動や施策

Output : Actionによって生じた直接的な成果や結果

Outcome : Outputがもたらす短期～中期的な成果や変化

Impact : Outcomeが長期的に広がり、社会全体や環境に及ぼす大きな影響や変革

インパクトマップは、リソースの投入から最終的な社会的インパクトに至るまでのプロセスを構造的に整理するためのフレームワークです。
投入する資源や実施する活動、それによって生まれる直接的な成果、さらにその先に生じる顧客や社会の変化・影響までを一連の流れとして捉えることで、組織の取り組みがどのような価値を社会にもたらしているかを可視化することができます。

私たちは、社会にとって「なくてはならない存在」になることを目指します。
社会にとって不可欠な存在であることが組織の価値であり、社会や環境への貢献こそが成果であると考えています。



物の価値と心の価値をつなぎ、「できてよかった」の幸せで、世界を豊かにします。



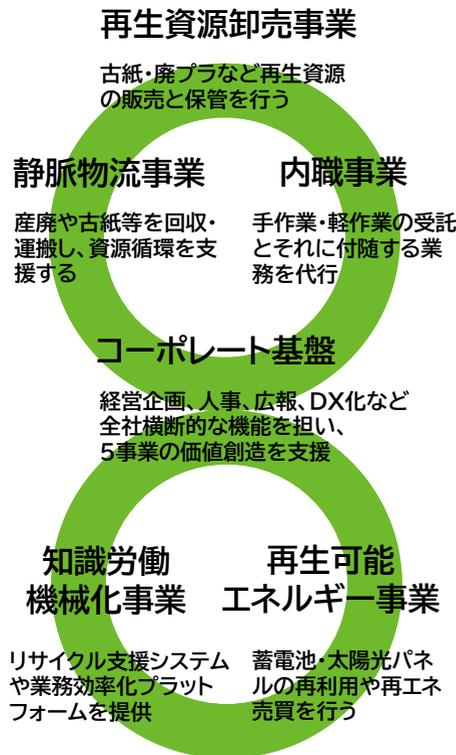
強固な基盤をつくる経営資本

自然資本	社会資本	人的資本
事業活動における資源・エネルギー	銀行・行政 製紙会社 古紙センター 回収業者	従業員 148名
知的資本	製造資本	
リサイクル知見 ブランド戦略 内職マニュアル エコドライブ	リサイクルセンター 10カ所 車両84台	
財務資本		
資本金 1.6億円 販管費 19.5億円 設備投資 2億円		

社会課題

コストが高くて再生資源循環が進まない
リサイクルは「面倒・難しい・つまらない」
就労機会の格差、働き方の選択肢不足
持続可能なエネルギー利用が進まない

5つの事業ドメイン
(現行3・将来2)を展開



基盤を支える実績

顧客数 1,500社
売上高 40億円
削減CO2量 23,672kg
再生資源回収量 69,530t
再生資源販売数 165,042t
衣類回収 1,925t
内職者数 234人
内職受注数 778件
開発商品数 2件
地域協賛 3件
取引エリア 8都県

※2024年時点

かなえたいのは「顧客変容」

再生資源を買うことで、社会課題解決に参加する意思表示をする
“電気を使うだけの存在”からエネルギーを選び、循環させ、発信する“脱炭素の実践者”になる

リサイクルを楽しく簡単に捉えるようになる

廃棄は循環の起点となり、顧客は委ね方を選ぶ時代へ



内職の広がりによって、企業は地域と連携し、働く人は誇りと参加を得る

社会的インパクト

目指すべき社会の姿

再生資源は「安さよりも何かしなきゃが大事」が常識となる
捨てるから託すへ。心の価値で資源循環が巡る
外注は地域共生の手段となり、誰もが無理なく働ける社会へ
リサイクルは世界中で誰でも楽しめる行動になる
エネルギーは育てる資産へ。自由と責任が世界の標準となる

「何かしなきゃ」を「できてよかった」に



VISION2046に向けた脱炭素ロードマップ

01 ~2023 基盤づくり

これまでの排出量を把握し、拠点ごとのエネルギー使用状況を整理することで、削減に向けた優先順位と対策方針を明確化しました。以降のロードマップを実行するための基盤を形にした期間です。

02 2024-2025 削減加速

主要設備の更新や電力の低炭素化、IT機器のリユース拡大など、即効性のある施策を集中的に進め、排出量の確実な削減につなげていきます。短期で成果を積み上げ、全社的な削減ペースを高めていきます。

03 2026-2030 構造転換

再エネ比率の拡大、業務プロセスの改善、物流や設備の最適化など、排出そのものを減らせる仕組みづくりに踏み込みます。2030年の削減目標達成に向け、事業構造をより低炭素型へ転換していきます。

04 2045-2050 カーボンニュートラル

排出の最小化と最終対策を組み合わせ、事業全体で実質ゼロを実現します。サプライチェーンを含めた削減にも取り組みながら、持続的にカーボンニュートラルを維持できる体制を確立していきます。



カーボンニュートラルの商品・サービス

当社では、回収から製紙原料化に至るまでの各工程におけるCO₂排出量を把握し削減とオフセットを組み合わせることで、カーボンニュートラルに配慮した商品・サービスの提供を進めています。工程全体を一体として捉えることで、脱炭素を事業の仕組みとして組み込むことを目指しています。

1 カーボンニュートラル回収

カーボンニュートラル商品を成立させる基盤として、当社はまず回収工程におけるCO₂排出量の算定と削減に取り組みました。回収車両の運用や業務プロセスを見直し、排出量の低減とオフセットを組み合わせたカーボンニュートラル回収の仕組みを構築しています。これにより、原料段階から脱炭素に配慮した循環を実現しています。



カーボンニュートラル回収ブランドロゴ

2 カーボンニュートラル段ボール

カーボンニュートラル回収によって生み出された製紙原料を活用し、段ボール古紙の製紙原料化加工におけるCO₂排出量の削減とオフセットを行うことで、カーボンニュートラル段ボールの提供を行っています。サプライチェーン全体のCO₂排出量低減を通じ、顧客企業のScope3排出量削減に寄与しています。



日本経済新聞では「段ボール、CO₂実質ゼロ」と題し、当社が原料提供を行う取り組みが紹介されました。

また、千葉日報の「環境の日」特集においては、古紙を取り巻く制度の変化や現場の変遷、今後の資源循環の展望について、当社の視点が紹介され、日刊工業新聞では、法人向けリチウム電池回収サービスの開始について、火災リスク低減と再資源化の観点から取り上げられました。今後も当社は、現場で培った知見を活かし、資源循環の高度化と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



サステナビリティを推進する主な取り組み

社内外の行動を広げるコミュニケーション施策

1 本社リノベーション



イノベーション創出とコミュニケーションの活性化を目的に、本社オフィスの改修を行いました。用途別スペースやフリーアドレスを導入し、生産性の向上と働きやすい環境づくりを実現しています。

3 ecoアカデミー



身近なごみを減らす工夫や、環境問題の解決に役立つ情報・スキルを、体験を通して学べるイベントを実施しています。紙リサイクルクイズや紙漉き体験などを行い、小さなお子様から大人の方まで楽しみながら参加できる内容を心がけています。66期は全22回開催しました。

2 SNS発信



斎藤英次商店では、会社の取り組みや従業員の様子、資源循環に関する知識などを、Instagram・TikTok・Xを通じて、身近でわかりやすく発信しています。

4 スポーツ・地域振興



リーグワン所属チームNECグリーンロケッツ東葛のオフィシャルパートナーを務めつつマッチデースポンサーとしてイベントを開催したり、柏ユースサッカー大会への特別協賛など、地域のスポーツ振興へも積極的に参加し、未来の担い手たちがのびのびと挑戦できる環境づくりに貢献しています。



支援活動

多様な挑戦を後押しする支援活動

当社は、茨城県を拠点に活動するeスポーツチーム「ORB GARDEN」のスポンサーとして、協賛およびイベント参加を通じた支援を行っています。ここでは、当社での勤務経験を経て、現在は茨城県を拠点にeスポーツチーム「ORB GARDEN」を率いる木之内潤平氏（活動名：じゅんぴーち）に話を聞きました。

——会社員から、まったく違う世界に踏み出した理由は何だったのでしょうか

ドライバーとして回収業務を日々続ける中で、「このまま回収業務だけをやり続けていく形がいいのかな」と思うようになりました。もともとゲームが好きで、仕事が終わった後もゲームをする生活だったこともあり、得意なことを軸に、新しいことに挑戦してみたいと考えたのがきっかけです。

——当社での経験が、今に活かえていると感じるのはどんな点ですか

現場でお客さまと直接向き合い、仕事やお金の流れを体感できたことです。チーム運営も結局は組織づくりなので、会社で学んだ考え方がそのまま役立っています。

——なぜ「茨城×eスポーツ」という形を選んだのでしょうか

茨城はエンターテインメントが少なく、若い人が外に出てしまう現実があります。自分が育った場所で、挑戦できる場をつくりたいと思いました。「茨城から世界と戦えるeスポーツチームを創る」というビジョンは、そこから生まれています。



——最後に、これから挑戦しようとしている人へ

キャリアは一直線ではなく、経験はあとから別の形で生きてくると思っています。失敗を恐れず、まずは動いてほしいです。

木之内氏の歩みは、当社で培った経験が社外での挑戦に活かされ、地域や次世代へと価値が広がっていく過程を示しています。当社は今後も、挑戦する人の意思を尊重し、その一歩を後押しすることで、社会に価値が循環していくあり方を目指していきます。



ORB GARDEN

代表・木之内 潤平氏



個人情報保護管理委員会

基本方針

斎藤英次商店は顧客・従業員・地域社会などの利害関係者の立場を踏まえ、正確な情報開示ならびに透明性の向上に努めております。公正かつ迅速な意思決定を行い健全な経営に取り組むために取締役を設け、また年一回外部機関による監査を実施し、個人情報を適切に保管・管理してコーポレート・ガバナンスのさらなる充実を図ります。



個人情報保護マネジメントシステムの審査を行い、「JISQ15001」の登録証を獲得しています。

また、KJMJK（機密情報抹消事業者協会）の正会員になっており、年に一度自己点検を実施、結果を協会へ報告しています。

品質管理委員会

基本方針

1. 古紙をより高く買いより安く売るために全力を尽くします。
2. 顧客のリサイクルを容易にする研究開発を行います。
3. 顧客満足の絶え間ない向上を目指し、顧客価値を高める製品・サービスの継続的改善を実施します。
4. 品質管理は、商品・サービスだけではなく、接客、収集運搬、計量、事務、などを範囲にします。
5. この品質方針を達成する為の、品質目標を設定し、進捗管理を行います。

全社員は品質向上及び目標を理解し、顧客満足を獲得するようそれぞれの役割を実行します。全社員は品質管理手順書を順守します。

項目	目標	実績
クレーム件数	11件以下/年	14件
品質教育訓練	591回以上/年	915回
故障数	70件以下/年	80件

安全衛生委員会

基本方針

職場における従業員の安全と健康を確保、快適な職場環境を形成するために労働災害の防止基準の確立、責任体制の明確化、自主的活動の促進の措置を推進しています。

項目	目標	実績
平均所定外労働時間	45時間以下	14.25時間
ドライバー平均所定外労働時間	45時間以下	26.59時間
平均有給休暇利用率	83%以上	83%
連続休暇取得率	22%以上	21.25%
BMI	25.19以下	24.65
事故労働災害数	41件以下/年	54件

5S管理委員会

5S活動とは

5Sとは職場環境改善のために「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰（しつけ）」の5つの観点から行われる取組や活動を意味します。古くは工場や病院などで取り入れられていましたが、今やさまざまな業種で5S活動が推進されています。作業効率向上や安全性の確保のため、委員が主導して「整理」「整頓」「清掃」の3つを行い、日々私たちの働いている環境を改善しています。

サステナビリティ委員会



全社で「ISO14001」に基づく環境マネジメントシステムを構築しています。そしてシステムが適切に運用されているか、外部研修を受けた社内監査員による内部監査に加え、認証機関による外部監査を定期的の実施し、システムの継続的改善に取り組んでいます。



会社概要

商号	株式会社 斎藤英次商店
所在地	千葉県柏市柏6-1-1 流鉄柏ビル3F
連絡先	support@saito-eiji.co.jp
創業	1946年3月1日
設立	1959年11月17日
資本金	1億5,700万円
役員	代表取締役：斎藤 大介 取締役：斎藤 元司、森塚 伸 監査役：斎藤 英三
従業員	144名（2025年12月時点）
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製紙原料及び製袋原料の販売 2. 和洋紙類の販売 3. 一般廃棄物再生にかかる事業 4. 産業廃棄物収集運搬 5. 一般廃棄物収集運搬 6. 一般貨物運送業 7. 前各号付帯する一切の事業 8. 袋詰め等軽作業・手作業の請負（内職業務）

所属団体・組織

全国製紙原料直納商工組合 / 関東製紙原料直納商工組合 /
各市町村再生資源組合 / 各市町村商工会議所 /
NPO法人 かしわ環境ステーション / 千葉市内古紙問屋協議会

事業所一覧

本社	〒277-0005 千葉県柏市柏6-1-1流鉄柏ビル3F
土浦営業所	〒300-0013 茨城県土浦市神立町3881-1
千葉営業所	〒264-0031 千葉県千葉市若葉区愛生町23
松戸営業所	〒270-2232 千葉県松戸市和名ヶ谷954-7
牛久営業所	〒300-1231 茨城県牛久市猪子町989-2
船橋営業所	〒273-0047 千葉県船橋市藤原3-19-15
流山営業所	〒270-0132 千葉県流山市駒木518
土気営業所	〒267-0056 千葉県千葉市緑区大野台2-1-6
取手営業所	〒300-1544 茨城県取手市山王1474
北茨城営業所	〒319-1556 茨城県北茨城市中郷町日棚644-95
柏沼南営業所	〒277-0922 千葉県柏市大島田2丁目18-3
内職市場 土気緑の森店	〒267-0056 千葉県千葉市緑区大野台2-1-6 （斎藤英次商店 土気営業所内）
内職市場 柏の葉キャンパス店	〒277-0871 千葉県柏市若柴267番地1中央182街区7
内職市場 土浦店	〒300-0013 茨城県土浦市北神立町7-8 （斎藤英次商店 土浦営業所内）